医科研究会（Web講演会）　日医生涯教育制度認定講座 申請中（CC28・1.5単位）

COVID-19 診療の最前線

講師　宮下（みやした） 修行（なおゆき）先生

関西医科大学 内科学第一講座 呼吸器感染症・アレルギー科 教授

略歴
1989年3月　川崎医科大学 卒業
1995年3月　川崎医科大学大学院 医学研究科修了（博士号取得）
1997年4月　米国ワシントン大学 病原微生物学教室研究員
1998年4月　川崎医科大学 呼吸器内科 講師
2011年4月　川崎医科大学 総合内科学1 准教授
2019年1月　関西医科大学内科学第一講座 呼吸器感染症・アレルギー科 教授
　　関西医科大学附属病院 感染制御部 部長

講師からの一言

日本における抗インフルエンザ薬の使用頻度は、世界の中で最も高い。インフルエンザは self-limit の疾患であることから費用対効果を考慮し、米国では抗インフルエンザ薬の使用を限定的とし、「Stay home」とされていた。２００９年に新型インフルエンザ・パンデミック時に、日本は通常通りの診療をし、死亡者は世界で最も低かった。一方、抗インフルエンザ薬の使用を推奨しない米国では、多くの犠牲者が出た。抗ウイルス薬は何を目的に投与するか？抗ウイルス薬はウイルスの複製を抑制することが主目的で、その結果、重症化（入院や死亡）を抑制できるデータが集積された。

新型コロナはインフルエンザと多くの点で異なり、2023 年 6 月の時点で、感染力も病原性も新型コロナの方が強い。日本感染症学会の抗インフルエンザ薬使用の提言の中に「症状緩和の目的で**軽症の外来患者から投与され、**それが結果として、重症化や入院の必要性の抑制につながってきたという背景があります。早期治療が、入院防止、下気道感染症合併防止に有効なことも報告されています。」と明記されている。COVID-19 診療のみならず感染症診療の基本が「早期診断・早期治療」であることは論を待たない。

日時　2024年 1月25日（木）19：30～21：00

場所　オンライン（Zoom）講演会
（会場設営はありません）

＊参加対象／ 医師、コメディカル、その他　**会員参加費無料**

〈参加申し込み登録〉
https://x.gd/0125COVID

右のQRコードまたは短縮URLからお申し込みください。佐賀県保険医協会のホームページからもお申し込みできます。

注意事項　参加登録後にZoomから確認メールが届きます。届かない場合は登録できていない可能性があります。事務局までお問い合わせください。

佐賀県保険医協会
☎ (0952)29-1933　FAX 23-5218
E-mail: hoken-i@star.saganet.ne.jp

LINE公式アカウント
友達募集中！